

15. 整形外科 臨床研修プログラム (選択)

1. 研修目標

整形外科的な診察や処置などの基本手技、術前・術後管理、手術などを研修し臨床医としての素養を身につけることを目的とする。

2. 研修期間 4週～40週

3. プログラム指導者と参加施設

プログラム指導者 整形外科 伊藤 芳毅
基幹病院 中部国際医療センター

4. 到達目標

1) 基本的処置手技

各種注射、採血、穿刺、導尿、ガーゼ交換、ドレーン管理、胃管挿入、滅菌消毒、簡単な切開、皮膚縫合、包帯法

2) 基本的診断手技

3) 整形外科的診察手技：骨・関節・筋・神経の診察、徒手筋力テスト、

4) 各種画像診断：骨・関節のX線、各種造影検査、MRI、エコー、シンチグラム、骨塩定量

5) 神経電気生理学的検査：NCV、関節穿刺、関節鏡検査

6) 術前・術後管理

術野の保清：剃毛、除毛、ブラッシング、輸液、輸血、呼吸循環管理、中心静脈栄養法、経腸管栄養法、合併症対策など

7) 保存療法

関節内注射、神経ブロック、ギプス包帯、副子の使用法、脱臼整復、牽引治療、理学療法

8) 手術療法

筋・腱縫合、骨接合術、関節切開、開放性骨折の救急処置など

5. 指導体制

1) 研修医は、常に指導医のもとに行動することを原則とする。特に危険を伴うと考えられる検査、処置、および手術は担当指導医の看護下で行う。

2) 救急患者が搬入されたときは、出来るだけその初期診療から関係を持ち診療する。

3) 指導医の誰かが当直をするときは、副直となり病棟での救急処置や時間外患者の救急処置について学ぶ。

6. 方略

1. 指導医とともに整形外科患者を受け持ち、術前・術後管理、病態把握、カルテ記載、退院支援を行う。

2. 各種注射、採血、穿刺、導尿、ガーゼ交換、ドレーン管理、胃管挿入、滅菌消毒、簡単な切開、皮膚縫合、包帯法を習得する。

3. 整形外科的診察手技（骨・関節・筋・神経の診察、徒手筋力テスト）、各種画像診断（骨・関節のX線、各種造影検査、MRI、エコー、シンチグラム、骨塩定量）、神経電気生理学的検査（NCV）、関節穿刺、関節鏡検査を習得する。

4. 筋・腱縫合、骨接合術、関節切開、開放性骨折の救急処置などの手術に助手として入り、手術の実際を体験する。
5. 整形外科カンファレンス、文献読書会、病棟総回診に積極的に参加し、症例発表やディスカッションを行う。
6. 研修期間中に、各専門分野の医師によるレクチャー（診療法、画像読影法、手術戦略の考え方など）に参加する。

7. 評価

指導医は、自己評価結果を隨時点検し、研修医の到達目標を援助する。

8. 週間スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	8:30 病棟回診 9:00 手術助手	8:30 整形外科カンファレンス及び文献読書会 9:00 手術	8:30 救急外来待機 及び病棟回診	8:30 病棟回診 9:00 外来見学	8:30 救急外来待機 及び病棟回診
午後	手術助手	手術助手	手術助手	13:00 脊髄造影検査 及び神経根ブロック (指導医のもと腰椎穿刺及び神経ブロック等) 15:00 整形外科病棟総回診	手術助手
夕方	17:00 その日の手術の反省、術後評価	17:00 その日の手術の反省、術後評価		16:00 整形外科カンファレンス	17:00 その日の手術の反省、術後評価
備考	研修期間中に、各専門分野の医師による（診療法、画像読影法、手術戦略の考え方などを含めた）レクチャーが行われる 研修期間中に各1回程度マンツーマンで指導				